

R5年度 事業者向け 放課後等デイサービス自己評価表

回答数：7

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	未回答	合計	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	6	1			7	都の基準を満たしており、適切な利用人員となっている。
	2 職員の配置数は適切であるか	7				7	現状適切な配置であるが、支援のさらなる充実を図るため、職員の募集をかけている。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか		5	2		7	段差の解消などの対策を現在検討中。豆庭のバリアフリー環境のガイドラインについて公表、周知していく。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	5	2			7	LINEグループを使ってスタッフ間の情報共有を行っている。フィードバックに係る時間を増やして職員の意識づけを強化する。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	7				7	保護者向け評価表についてはかなり細かいレベルで共有できており、そこで出た改善案をしっかりと全体で周知し、利用者とその家族に還元していく。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	3	2	1	1	7	施設HPにて公表している。（施設ホームページよりリンクにてアクセス可能）
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	2	3	1	1	7	現状、第三者による外部評価は行ってない。今後実施を検討していく。
8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	6		1		7	規程の研修については計画下に行っている。施設運営に必要なものは施設側として積極的に研修を実施していく他、自主的な外部研修の受講を奨励している。	
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	7				7	アセスメント・面談については1年に2回以上実施し、より現状を反映した内容を個別支援計画として作成している。
	10 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	2	5			7	現状は施設所定のアセスメントシートを作成した上で、個別支援計画作成時に使用している。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っているか	5	2			7	毎朝MTGを実施し、その際に細部まで話し合いを行い、活動内容に反映させている。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	6	1			7	常勤・非常勤スタッフの充足や外部講師が充実してきていることもあり、プログラムの幅は確実に広がっている。今後は曜日間の偏りが減るようにバランスを整えていく。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	5	2			7	通所時間に見合った支援内容の充実を図っている。特に長期休暇中については滞在時間が長いことのメリットを活かして、イベントの強化や外出活動の再開、社会性を養うアクティビティの提供を心がけている。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	6	1			7	集団活動を軸とし、利用者や保護者の希望・ニーズに合わせて個別活動を組み合わせ、計画の策定を行っている。福祉に関連する有資格者が増えたこともあり、その資格の側面を活かした支援を個別・集団問わず計画している。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	6	1			7	ミーティングは1日に2回実施し、出勤時間の異なる職員でも情報共有の漏れの無い体制を整えている。その他全体での情報共有はLINEグループも活用しており、口頭連絡に加えて、個別支援計画書や「今日の決め事」というスタッフ間共通のインフォメーション、支援記録のファイルを確認してもらうことなどを通じて確認を行っている。周知徹底に向けてコミュニケーションをより深めていく。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	4	1	2		7	帰りの送迎の都合上、当日の振り返りは難しく、翌営業日の午前中にミーティングにて振り返りを実施している。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	6	1			7	支援時間の後半に記録（連絡帳）を書き、翌営業日のミーティング時に常勤職員全員で読み合わせする。それと共に記録の確認を行い、改善点についても話し合っている。
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	6	1			7	各児童とも半年に一回、職員間で強み・課題を確認し話し合った結果を全体で共有している。施設での面談実施を基本としているが、現在は希望者に関してはGoogle meet等リモートでのモニタリング面談も併せて行っている。
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っているか	6	1			7	現状複数組み合わせさせた活動を行っているが、定期的にガイドラインを全体で確認・共有の上、支援の在り方を深めている。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	5	1	1	7	参画しているが、対象児が少なく開催されることが少ないのが現実である。今後は参画するスタッフの裾野を広げていけるよう、職員間でスキルの差が減るように計画している。	
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	5	2		7	毎日ご家族宛てに翌日の連絡として送迎時間、持ち物等を記載した内容を送っている。また保護者には保護者専用のメールアドレスを使用して個々の連絡に対応している。 学校の情報に関しては、学校からの直接の情報収集に加え、保護者からの情報提供もいただいている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	1	2	3	1	7	医療的ケアが必要のある子については、運営規定にて受け入れないことを記載している。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	2	2	3		7	原則は契約時のアセスメントの際に保護者からの聞き取りにて共有している。場合によっては就学前の情報や利用計画などを共有させようということがある。 その後は必要に応じて関連する事業所とのやり取りを行っている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	3	2	1	1	7	利用者や障害福祉サービス事業所の求めに応じて行っている。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	1	4	2		7	連携が上手に図れていない、というのが現状。 今後は各スタッフ個別にはなるものの、専門機関の研修の受講を進め、全職員への共有を行っている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか		3	4		7	コロナの状況を鑑み控えていた部分もあったが、今後はイベント等を通じて交流を考えていきたい。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか	1	4	1	1	7	渋谷区の定例の放課後等デイサービス連絡会に参加している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	7				7	連絡帳でのやり取りの他、送迎時の職員と保護者の対面でのやり取りにて情報交換を行っている。また施設のメールアドレスを利用し、常時子供の情報の受信ができる環境を整えている。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	2	3	2		7	プログラムとしてのペアレントトレーニングは行っていないものの、個別支援計画作成時の面談の際にご要望を受けた際・施設が必要と感じた際は適宜実施するようにしている。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	5	1	1	7	新規契約時に丁寧に説明しているが、その後に変更等が発生した際は随時書面にて説明している。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	6	1		7	通常は自宅送迎時や個別支援計画の更新のタイミングで相談・助言などを行っているが、保護者からの要望に応じて、適宜直接もしくはオンラインでの面談の対応を行っている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	1	5	1		7	保護者会等の会合に関しては、保護者からのニーズが少なく実施していない。その代替として、保護者と児童が一緒になって参加可能なイベントを企画・実施し、保護者の交流の場を設けている。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	7				7	苦情解決責任者を決め、上席を中心とした解決体制を整えている。迅速に解決を図れるよう、事象が発生した際は
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	7				7	月一回のペースで「豆の木通信」の発行を行い、その月の出来事等の情報の共有を行っている。
	35	個人情報に十分注意しているか	7				7	研修実施による理解の向上と各スタッフへの啓蒙を続けていくことや、現状はInstagramに制限をかけるなどの対応を行っている。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	7				7	子どもに対して、当日来所する子の顔や送迎車の並び順などを掲載し、子ども達自身で把握できる環境作りを行っている。また、書字によるコミュニケーションが会話を用いるより優位な児童に対しては、筆談ボードや黒板の使用により伝達のギャップを埋める配慮を行っている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	2	3	2		7	コロナが落ち着いてきたこともあるため、状況改善のタイミングを見計らって地域住民向けの企画を再開予定。一昨年にアートの展示会の実施実績あり。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	5	1	1	7	各種マニュアル類は事務所に配置し、来訪者が簡単に閲覧できるようになっている。職員間では定期的にマニュアルの確認を行い、常に意識づけするようにしている。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	7			7	利用者に対しては、火災もしくは地震の避難訓練を月1回のペースで行っている。利用者が固定しないよう、各曜日ローテーションにて計画・実行している。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	7			7	施設では各年度につき2回の研修機会を設け、全職員に受講の徹底をしている。業務における必要性や各人の希望に応じ、外部研修の受講も行っている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	7			7	運営規定において身体拘束の項目を設定し、契約時に必ず確認していただいている。拘束が止むを得ず必要になる可能性がある場合、個別支援計画に明文化している。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	3	3	1	7	現在食物アレルギーに注意が必要な子どもは受け入れておらず、指示書も受け取っていない。該当児の受け入れを行う場合は、契約時の確認の徹底と、職員の目につく場所での指示書の周知徹底を行う。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	7			7	事例発生の都度、書面に残して全スタッフに周知徹底している。書面をファイリングする他、共用PC内でも閲覧できるようにしている。